

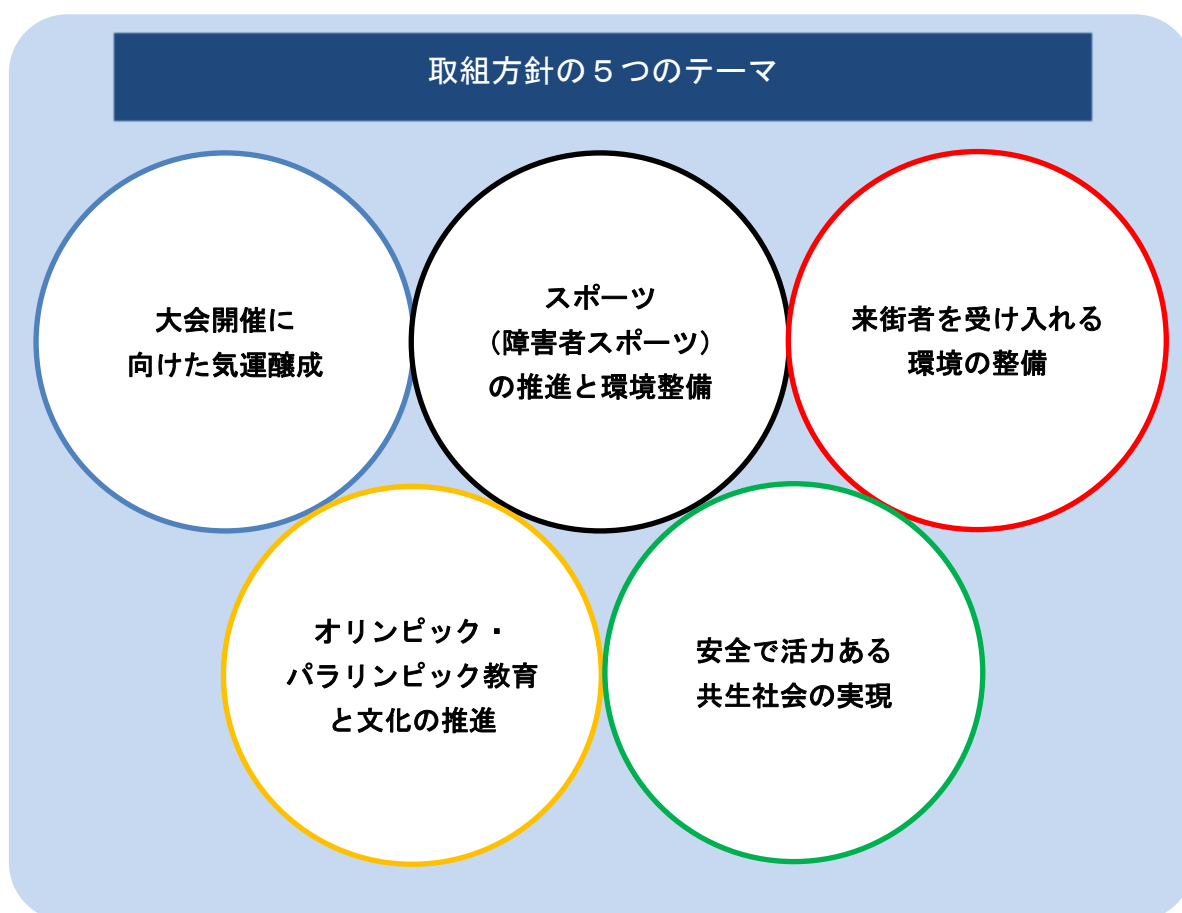
第3章 立川市における 東京 2020 大会のレガシー

第3章 立川市における東京2020大会のレガシー

1 レガシーの創出に向けて

立川市では、平成29(2017)年12月に「2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた立川市の取組方針」(以下「取組方針」という。)を策定し、5つのテーマ「大会開催に向けた気運醸成」、「スポーツ(障害者スポーツ)の推進と環境整備」、「来街者を受け入れる環境の整備」、「オリンピック・パラリンピック教育と文化の推進」、「安全で活力ある共生社会の実現」のもと、それぞれの目指す将来像と取り組みの方向性を明らかにして、市民や市議会、地域の関係団体、行政が緊密に連携協力して取り組みを進めることとしました。

本章では、第2章で報告した様々な取り組みを推進することで得た本市のレガシーを取組方針における5つのテーマに沿ってまとめました。



2 立川市における東京 2020 大会のレガシー

大会開催に向けた気運醸成

取組方針で目指した将来像

- 大会開催に向けた気運醸成の取り組みを通して、市民に夢や希望など心の財産が形成されている。
- 市民との協働や市域の関係団体との連携により、一体感や活力が醸成されている。



立川市における東京 2020 大会のレガシー

- 東京 2020 大会に関連した様々な取り組みにより、市民、特に子どもたちは、大会の記憶や感動とともに、心に残るかけがえのない経験を得ることができました。
- 多岐にわたる関係者の皆様と築いた強固な連携関係は、将来にわたって続く立川市のレガシーとなりました。

【詳細】

東京 2020 大会の記憶や感動が、市民、特に子どもたちにとってかけがえのない心の財産となるように、聖火リレーや、市にゆかりのある選手の応援、事前キャンプなど、市と市民、関係団体の皆様が連携して、心に残る取り組みを展開しました。

オリンピック・パラリンピック聖火リレーは、点火セレモニーに参加された聖火ランナーやサポートランナー、パラリンピックの採火式に参加された市域の関係団体の皆様にとって、心に残るかけがえのない思い出となりました。

また、聖火リレーの数年にわたる準備の段階から多大なるご協力をいただいた大変多くの関係者の皆様と築いてきた強固な連携関係は、将来にわたって続く立川市のレガシーとなりました。

なお、市内の全小中学校を巡るオリンピックとパラリンピックの聖火リレートーチは、子どもたちが間近に見て、触れて、オリンピックとパラリンピックを身近に感じることで心に残る取り組みとなっています。

さらに、近代五種で2度のオリンピックに出場された高宮なつ美選手の応援をきっかけに開催が始まった近代3種大会では、子どもたちが選手と同じ競技を体験することで競技への理解が深まり、東京 2020 大会における応援にもつながりました。近代3種大会は、立川市における東京 2020 大会のレガシーを継承する大会として、今後も、ご協力をいただく立川市体育協会や立川市陸上競技協会、立川市水泳協会の皆様と連携して開催を続けていきます。

そのほか、ホストタウンとしての小中学校における学校給食での取り組みや大使との交流等は、子どもたちの国際理解を深める機会となったほか、大変多くの関係者の皆様と連携して実施したベラルーシ新体操チームの事前キャンプでは、華麗で迫力のある演技を披露した選手と交流した子どもたちにとって、将来にわたり記憶に残る貴重な経験となりました。

スポーツ（障害者スポーツ）の推進と環境整備

取組方針で目指した将来像

- 誰もが利用しやすいスポーツ環境が整備されている。
- 誰もがスポーツに親しみ、健康や体力の保持・増進につながっている。
- 障害者スポーツの普及により障害者に対する理解が進み、心のバリアフリーが醸成されている。



立川市における東京 2020 大会のレガシー

- 必要な備品の設置や施設の改修など、誰もが利用しやすいスポーツ環境の整備を進めました。
- スポーツの楽しさや魅力を発信するとともに、立川市体育協会と連携して、子どもや高齢者、障害者など、誰もが参加できるスポーツ事業を展開することで、スポーツを「する」「みる」「ささえる」市民の取り組みにつなげました。
- 障害者スポーツの教室や体験会、研修会を開催することで、障害者スポーツの普及とともに、障害のある方への理解の促進に努めました。

【詳細】

誰もが利用しやすいスポーツ環境を整備するとともに、誰もがスポーツに親しむことで、健康や体力を保持・増進することにつなげ、さらに、障害者スポーツの普及を促進することで、障害に対する理解を深めることを目指し、多種多様な取り組みを進めてきました。

障害者スポーツを推進する取り組みでは、市民に身近な市民体育館で、誰でも参加できる障害者スポーツ教室を開催したほか、障害者施設における訪問型のスポーツ教室を実施し、日頃、スポーツに接する機会の少ない障害のある方が、継続してスポーツを楽しむきっかけとなりました。

また、たちかわ楽市や緑化まつりなど、市民が多く集まるイベントの場を活用して、車いすバスケやブラインドサッカーなどの障害者スポーツ体験を実施することで、障害者スポーツの普及と障害のある方への理解の促進に努めました。

さらに、立川市スポーツ推進委員協議会と連携して研修会を開催し、スポーツ推進委員が障害者スポーツを運営する際のノウハウを学ぶことで、地域における障害者スポーツの推進につなげました。

なお、多摩 26 市が連携して開催した東京都市町村ボッチャ大会には、多摩地域の 26 市と 3 町から 57 チーム 236 人の参加があり、障害の有無や年齢、性別にかかわらず、白熱した戦いを繰り広げました。本大会は、今後も継続して開催し、多摩地域における東京 2020 大会のレガシーとしていきます。

立川市では、これまで、東京 2020 大会の開催に向けて、「する」「みる」「ささえる」スポーツ（障害者スポーツ）を推進するために、立川市体育協会や様々な関係者と連携して取り組みを進めてきました。今後も、この連携関係をレガシーとして、引き続き、スポーツ実施率（週 1 回以上スポーツを実施する成人の割合）の向上や、市民の誰もが、いつでも、どこでも、いつまでも、スポーツに親しむことができるまち立川の実現を目指します。

来街者を受け入れる環境の整備

取組方針で目指した将来像

- 立川の魅力が国内外に発信され、外国人を含む多くの来街者が訪れている。
- 市民にボランティアや多文化共生の意識が醸成されている。
- 地域資源の活用により市域の経済が活性化され、まちが活気づいている。
- 人々の交流がより深まり、まちにさらなるにぎわいが創出されている。



立川市における東京 2020 大会のレガシー

- 市域の関係団体と連携して、来街者に向けた情報発信力を強化したほか、立川駅周辺の来街者を受け入れる環境の整備を進めました。
- 多文化共生意識を向上させる講座の開催や、ボランティアマインドを高める研修の実施により、言葉や文化の違いに関わらず、訪れた人を温かく迎えるための意識を醸成しました。

【詳細】

新型コロナウイルス感染症の影響により、外国人の入国制限措置が講じられ、東京 2020 大会においても、競技会場における無観客措置や、聖火リレーにおける人流抑制措置等の感染防止策により、まちなぎわい創出が難しい状況となりましたが、こうした状況に至るまでの間には、市域の関係団体と連携して、訪れた人々をおもてなしの心で受け入れるための様々な準備を進めてきました。

立川観光協会と連携した観光ガイドマップの作製や、立川市商店街振興組合連合会と連携したWEBサイト「たらった立川」の開設、フェアレ立川を紹介する「フェアレ立川アートナビ」の配信、フェアレ立川アートプロモーション動画の公開などにより、情報発信力を強化したほか、立川駅周辺の案内サインの整備や案内マップの作製、立川商工会議所と連携した公衆無線LANの整備等に取り組む、立川駅周辺の来街者を受け入れる環境の充実につなげました。

これらの取り組みを通じて築いた受入体制を十分に活用して、今後も来街者のおもてなしにつなげるとともに、国営昭和記念公園をはじめとする観光資源や充実した商業施設等を有効に活用し、地域経済の活性化に向けて取り組みを推進します。

また、言葉や文化の違いに関わらず、訪れた人を温かく迎えることを目的に、多文化共生や国際理解に関する講座を開催し、多文化共生意識の向上を図ったほか、外国人おもてなし語学ボランティアの育成やフォローアップ研修の実施、東京2020大会における都市ボランティア活動、さらに、実際の活動には至りませんでした。大変多くの方々から応募をいただいた聖火リレーサポーターなど、それぞれの活動に意欲を持って多くの方々に参加をいただくことでボランティアマインドを高めることにつながりました。これらの経験が、今後、地域におけるボランティア活動の更なる充実につながることを期待しています。

オリンピック・パラリンピック教育と文化の推進

取組方針で目指した将来像

- オリンピック・パラリンピック教育により、児童・生徒にボランティアマインドや障害者理解、スポーツ志向、日本人としての自覚と誇り、豊かな国際感覚が育まれている。
- 文化プログラムの推進により、様々な文化芸術が息づき、誰もが文化芸術を楽しんでいる。



立川市における東京2020大会のレガシー

- 小中学校における様々な取り組みを児童・生徒が実際に体験することで、ボランティアマインドや障害者理解、スポーツ志向、日本人としての自覚と誇り、豊かな国際感覚が生まれ、生涯にわたるかけがえのない財産となりました。
- 様々な文化の取り組みを展開して文化芸術に身近に触れることのできる機会を提供するとともに、地域の特性に応じた特色ある文化や市民の文化芸術活動を広く発信・支援し、文化芸術活動の充実につなげました。

【詳細】

東京 2020 大会の開催を契機に推進したオリンピック・パラリンピック教育では、市内の各小中学校において、様々な取り組みを展開することで、児童・生徒のボランティアマインドや障害者理解、スポーツ志向、日本人としての自覚と誇り、豊かな国際感覚を育むことにつながりました。

オリンピックやパラリンピックを招いた講演会や交流、実技体験の実施では、オリンピックやパラリンピックの貴重な体験談や、高い技術を直接見せていただくことで、スポーツに対する関心が高まる機会となりました。

また、様々な障害者スポーツの指導者を招いた障害者スポーツの体験では、実際に障害者スポーツを体験することで、障害者スポーツや障害者への理解を深めることにつながりました。

さらに、琴や三味線、外国の伝統楽器の演奏者などを招いて実際に演奏していただくなど、日本文化の学習や外国の文化に触れることで、日本人としての自覚と誇りを持つとともに、留学生等の外国人を招いた交流を実施し、豊かな国際感覚を身に付けるきっかけとなりました。

そのほか、学校周辺の掃除活動や朝の挨拶運動を行うことで、人の役に立つことの喜びを感じ、主体的に自分にできることについて考える意識が高まるとともに、ボランティアマインドの育成につながりました。

東京 2020 大会の開催は、児童・生徒にとっても貴重な機会となり、その経験は、生涯にわたるかけがえのない財産となりました。これらの経験が、今後、かけがえのない記憶として次世代に継承されていくことを期待しています。

文化プログラムの推進では、立川シアタープロジェクトの開催やファーレ立川アートナビの配信、アールブリュット立川展への支援、子どもたちが参加する伝統芸能体験などの取り組みにより、文化芸術に身近に触れることのできる機会を提供するとともに、地域の特性に応じた特色ある文化や市民の文化芸術活動を広く発信し、文化芸術活動の充実につなげました。

今後も、引き続き、様々な文化芸術が息づき、誰もが文化芸術に触れ、楽しめる機会を提供し、特色ある文化や市民の文化活動を広く発信することにより、文化の香り高いまちを目指していきます。

安全で活力ある共生社会の実現

取組方針で目指した将来像

- 多様性を尊重する意識が生まれ、誰もがいきいきと暮らせる共生社会が実現している。
- 市域の連携が強化され、安全・安心のネットワークが形成されている。



立川市における東京 2020 大会のレガシー

- 多文化共生や国際理解に関する講座を開催したほか、障害者スポーツ教室等の取り組みを推進することで、多様性を尊重する意識を醸成しました。
- 警察や消防等の関係機関に事業実施への協力をいただくことで、連携関係が一層強化され、安全・安心のネットワークが形成されました。

【詳細】

誰もがいきいきと暮らせる共生社会の実現に向けて、多文化共生や国際理解に関する講座を開催したほか、障害者スポーツの教室や体験会、研修会などの取り組みを推進し、多様性を尊重する意識を醸成しました。

また、安全の確保を強化する取り組みでは、聖火リレーやコミュニティライブサイト、事前キャンプ等の実施に向けた準備にあたり、警察や消防等の関係機関にご協力いただくことで、市域の連携関係が一層強化され、安全・安心のネットワークが形成されました。

今後も、引き続き、多様性を尊重する意識が育まれ、誰もがいきいきと暮らせる共生社会を実現するための取り組みを進めるとともに、関係機関との連携を深め、安全・安心なまちづくりにつなげていきます。

編集後記

東京では2度目の開催となったオリンピック・パラリンピック。

新型コロナウイルス感染症の影響により1年延期となった大会は、聖火リレーにおける公道走行の中止や、競技会場における無観客開催など、感染拡大防止を目的とした人流抑制措置を講じて開催されました。

東京2020大会は、大変困難な状況の中での開催となりましたが、これまで努力を積み重ねてきたアスリートの皆さんが、この難局を乗り越えて光り輝く姿は、私たちに力強く勇気を与えてくれました。そして、競技を観戦し、選手を応援した人々の心には、興奮と感動の記憶が強く刻まれたことと思います。

立川市においても、市民の命と健康を第一に考え、感染症への対策を徹底して講じることで、聖火リレーや事前キャンプ、コミュニティライブサイト等の多くの事業は、変更や中止を余儀なくされましたが、取組方針に基づき、強固な連携関係を構築してきた多岐にわたる関係機関の皆様からのご協力をいただくことで、市民の心に残り未来につながる取り組みを進めることができました。

改めまして、ご協力をいただきました皆様方に感謝を申し上げます。

これまで進めてきた取り組みの一つひとつが皆様の心に刻まれ、子どもたちの大きな経験となり、未来につながるレガシーとなることを願うとともに、これまでご協力をいただいた皆様と一丸となって取り組んできた力を継承し、さらなる立川市の発展と賑わいの創出につなげてまいります。

